

敷地内乾式貯蔵、避難に関する、京都府北部住民へのアンケートの結果

「乾式貯蔵の計画は知らない」「説明すべき」が約 8 割

- 乾式貯蔵に「反対」と「先に搬出先・貯蔵期間を決めるべき」の合計が約半数
- 老朽原発の運転継続に半数以上が「反対」
- 「これ以上核のゴミを子や孫に残したくない」



[アンケートの趣旨]

関電は高浜、大飯、美浜原発における敷地内乾式貯蔵の計画を進め、現在、原子力規制委員会の審査が進んでいます。乾式貯蔵施設ができれば、行き場のない核のゴミを増やすこととなり、老朽原発の運転が継続されることとなります。関電は乾式貯蔵施設の建設前には、福井県と立地 3 市町の事前了解を改めて得なければなりません。しかし他方で、30km 圏内の自治体には事前了解の権限はなく、住民の声を聴くこともありません。とりわけ京都府 30km 圏内には事故時の避難対象者が 10 万人を超えます。



そのため私たちは、周辺住民の懸念や不安の声を可視化したいと考え、先行して計画が進められている高浜原発の U P Z 圏（概ね 30 km 圏）に入る京都府北部の 7 市町の住民にアンケートを実施しました。

市町	対象区域	対象世帯数	アンケート目標世帯数	アンケート実施数	備考
綾部市	UPZ	3,939	197	199	4回 淵垣、梅迫、中上林、口上林
京丹波町	UPZ	1,240	62	61	1回 和知
福知山市	UPZ	182	9	11	1回 大江
南丹市	UPZ	1,627	82	89	2回 美山
宮津市	UPZ	8,187	410	421	6回 宮津、栗田、府中、日置
伊根町	UPZ	603	30	35	2回
舞鶴市	PAZ	221	44	41	1回
合計		15,999	834	857	17回

トを実施しました。

京都府をはじめ、福井県や周辺の自治体が、このアンケート結果を尊重されるように求めます。（美浜・大飯原発から 30km 圏内に入る滋賀県は、2024 年 3 月 22 日に関電に対して乾式貯蔵を懸念する意見書を提出。）

アンケートの設問は 5 つ（次

ページ以降を参照）で、アンケート用紙の末尾のご意見欄に、特に思うこと等の意見を書いてもらいました。

戸別訪問の際は、まずアンケートに協力をお願いし、書いてもらった後に、敷地内乾式貯蔵に関するカラーリーフレットを渡しなが、住民の皆さんと対話してきました。その中で、さまざまな思いを聴くことができました。留守宅やアンケートを断る人もあったため、合計 857 枚のアンケートを集めるために、2～3 倍の世帯を訪問しました。

避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい宮津の会/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会

<アンケートの基本情報>

- ・アンケート対象：高浜原発P A Z（概ね5 km圏）、U P Z圏の京都府7市町の住民
- ・アンケート数：857枚（舞鶴市はP A Z圏・準P A Z圏全世帯の約20%、他の6市町はU P Z圏全世帯の約5%）
- ・アンケート実施期間：2024年6月2日～11月12日
- ・戸別訪問実施回数、参加人数：17回、のべ73名（これ以外に、避難関西の連絡先団体の「原発なしで暮らしたい宮津の会」が宮津市内をこまめに回って集めた）
- ・方法：戸別訪問し、その場でアンケートを書いてもらう
- ・アンケート実施団体：避難計画を案ずる関西連絡会（「宮津の会」の知り合いの方や、福井県の市民にも協力していただいた）

◆回答の大きな特徴

- ①約8割もの人が乾式貯蔵の計画を知らず、住民への説明が必要と回答。
今回初となる乾式貯蔵という大きな問題について、住民に情報は知らされていなかった。これに対し圧倒的多数の住民が、説明は当然なされるべきと回答。
- ②原発震災時に避難や屋内退避は「できない」が約半数。「できる」は約1割。
- ③乾式貯蔵に「反対」「先に搬出先等を決めるべき」を合わせると約半数となり、乾式貯蔵そのものと、関電の進め方に批判の声がある。「賛成」はごくわずか。
- ④古い原発の運転継続は半数以上が「反対」。
- ⑤核のゴミを心配し、子や孫に負の遺産を残すべきでない、これ以上増やすべきではないという意見が多く書かれていた。

◆アンケートの個々の設問に対する回答

【1】約半数もの人が複合災害時に避難や屋内退避は「できない」

1. 地震と同時に若狭の原発で事故が起これば、避難や屋内退避はできると思うか？



・49%と約半数もの人が「できない」と回答。「できる」と考えている人は11%にすぎない。

・「できない」と答えた理由：高齢のため、能登半島地震の被災地の状況を見て、山間部の地域では避難道が1本しかないため等。

「高齢、持病なので、集団避難に対して信頼できない」、「志賀原発を取り巻く状況は他人事ではない」、「逃げる所がない」、「1つの道しかないから逃げている間にひばくする」、「原発事故が起きたら避難訓練通りにはいかない。訓練は無意味」等々。

・「分からない」も40%と多かった。多くが悩みながら「分からない」を選択していた。

高齢者は、家族がいれば避難できるが、一人の時はできない等、様々な場合を考えて分か

らないと答える人が多かった。また、能登半島地震の様子を思い浮かべ、首を傾げ悩みながら、できるともできないとも答えにくいということで、「分からない」を選ぶ人も多かった。

・「できる」と答えた人でも、避難方法や避難先が分からないと書いた人もあった。

「老人会の会合で説明を要望したいです。避難が指示されたときの対応が分からない」、「いい避難先が決まっていればいいが。(知らない)」。

【2】約8割が敷地内乾式貯蔵の計画を「知らない」

2. 使用済核燃料の乾式貯蔵計画を知っているか？

知っている 22%

知らない 78%

・78%もの人が関電の敷地内乾式貯蔵の計画を「知らない」と回答。乾式貯蔵施設ができれば、行き場のない核のゴミが増えるとともに、老朽原発の運転が継続されることになる。周辺住民の安全を脅かす施設の計画であるにも関わらず、圧倒的多数の住民には知らされていない。

・「知らない」と答えた人は、「こんなもん聞いたことない」「京都府や市町から何も聞いてない」と全く聞いたことがないと話す人が多かった。「知っている」と答えた人の多くは、テレビで少し見た覚えがあるというような話をされていた。

【3】「反対」「先に搬出先等を決めるべき」合計が約半数。「賛成」は極少数

3. 乾式貯蔵後の搬出先も貯蔵期間も明らかにしていない
このままでは、使用済燃料が原発にたまり続ける可能性がある
乾式貯蔵についてどう思うか？

やめるべき 23%

搬出先・期間を決めて
から行うべき 25%

分からない 43%

仕方がない 7% 乾式貯蔵に賛成 2%

・「乾式貯蔵はやめるべき」「搬出先・貯蔵期間を決めてから行うべき」が合わせて48%。後世に負の遺産を残したくないという意見を書く人が多かった。

関電が搬出先も貯蔵期間も決めず、乾式貯蔵の計画を進めていることへの批判が多い。

「子供達に負の遺産は残してはいけない」「核燃サイクル実現の見込みはないのだから『中間』などあり得ない」「使用済核燃料の地方への押しつけを許してはいけません」「原発はトイレのない家と同じ」「使用済燃料の処理方法が未解決のまま進むことに疑問を持っています」等々。

・「賛成」はわずか2%。「仕方がない」と容認する人も7%と少数。

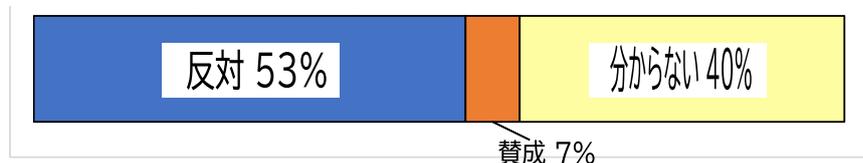
・乾式貯蔵について初めて聞いたということで、「分からない」とする人も43%と多かった。しかし、「分からない」という人でも、使用済燃料の行き先も決めずに原発を動かしていることを批判する意見もあった。

「建設するときには先のことをちゃんと決めてからすべき」「国や電力会社は無責任」、

「使用済みの処理も決まらず、人の手で制御できないものを使うべきではない」等。

【4】古い原発の運転継続は半数以上が「反対」。「賛成」は1割未満

4. 乾式貯蔵ができれば、原発の運転が継続される可能性がある古い原発の運転継続をどう思うか？



・53%と半数以上もの人が、古い原発の運転継続に「反対」。他方で「賛成」はわずか7%。

・「反対」の人は、「原発反対」「原発はすぐに止めるべき」等の意見を書く人が多かった。また、核のゴミをこれ以上増やさないために原発を止めるべきとの意見もあった。

「『核のゴミ捨て場』・・・誰であっても自分達の近くにあるのはいやなもの。だからゴミを出さない為にも運転をすぐに！止めるべき」「人間の手に負えないものをどうすればよいのでしょうか。誰がどうするつもりなのでしょう。これ以上増やさないことが一番すべきことでしょう。原発は全て止めるべきです」等。

・「分からない」も40%と多いが、悩みながらも原発はなくしたいとの思いも書かれていた。

「原発事故のことを思いますと、ぞおっと思います。原発なしで生活ができることを常に願います」等。

【5】8割以上が住民への説明は「必要」

5. 避難計画や乾式貯蔵について電力会社や自治体から住民へ説明する必要があると思うか？



・82%もの人が「説明すべき」と回答。乾式貯蔵や古い原発の運転への「賛成」「反対」「分からない」にかかわらず、住民への説明は当然必要だと圧倒的多数の人が回答している。

・つくる前に住民に説明すべき、常に住民の意思を確認すべき等の意見が書かれていた。

「関係する市町村の住民には、計画が上がった時点から説明をしていくべき」、「宮津は30キロ圏内にあるし、説明会は作る前に必ず市の責任で開いてほしい」「指摘されなければ、公表する必要はない、などの姿勢ではなく常に住民の意思を確認、尊重すべきだと思います」等。

2024年12月5日 避難計画を案ずる関西連絡会

この件の連絡先：原発なしで暮らしたい宮津の会

グリーン・アクション：京都市左京区田中関田町 22-75-103 TEL：075-701-7223

美浜の会：大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル 3階 TEL：06-6367-6580

(この活動は、高木仁三郎市民科学基金からの助成を受けました)